

Rare sheep

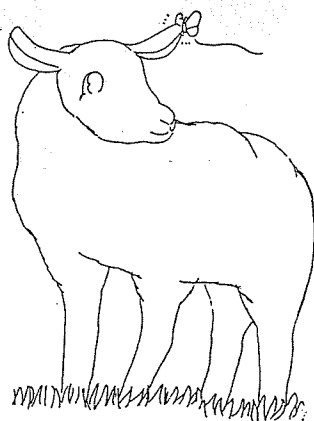


manx loghtan

No. 2

目 次

レア・シープと私 (イギリスの巻①)	正田 陽一.....	1
マンクス・ロフトン・ワークショップに出席して.....	百瀬 正香.....	2
マンクス・ロフトン種の白徴について.....	正田 陽一.....	4
日本の羊毛の調査・研究部門の報告.....	山本 実紀.....	6
日本のレア・シープ取り組み部門の報告.....	岩瀬 誠樹.....	7
羊と共に生きる.....	本間 文子.....	8
誌上ギャラリー.....	三上 千晶.....	9
マンクス・ロフトンのTシャツ		9
自己紹介.....		10
SHEARER?!	内山 礼子.....	11
羊のティータイム.....	百瀬 正香.....	12
毛刈りは健康診断日か? 格闘技か?	武藤 浩史.....	13
羊毛と羊に優しい毛刈り講習会.....	武藤 浩史.....	13
めん羊サミット報告.....	工藤 悟.....	14
神奈川フリース・デーに参加して.....	下山里香子.....	15
インフォメーション、編集後記.....		15



表紙イラスト：笠原 徹郎 本文イラスト：大倉 真実

レア・シープと私 (イギリスの巻①)

正田 陽一

今の天皇陛下が皇太子時代に、エリザベス女王の戴冠式に出席のため訪英された帰路、スコットランドに立ち寄られて詠まれた御歌に次のような一首がある。

「こげ茶色の ヘザーと石ころの 岡の上に 顔の毛黒き 羊群遊ぶ」

歌集「ともしび」に収められているこの御歌は、私の大好きな歌の一つである。ここに詠まれている羊は、おそらくスコティッシュ・ブラックフェイス(Scottish Blackface)であろう。あるいは、イングランド北部のペニン山地に多いロンク(Lonk)か、ラフ・フェル(Rough Fell)かもしれない。これら三品種は、いずれも顔色が黒い粗毛の黒白斑で、高地の荒れた自然草地に放牧されている。

私がブラックフェイスとの初対面を果たしたのは、1964年の夏のロイヤルショウでのことだった。ワービックシャーのコベントリーで毎年7月に開催されるロイヤルショウには、英国で飼育されている家畜の全ての品種が出陳される。

家畜品種論に強い関心を持っている私は、かねてからこのショウを観たいと希い続けていた。ショウの内容は私の永年の期待を裏切らぬ素晴らしいものであったが、とくに感銘深かったのは、緬羊の品種の多様さであった。ブラックフェイスもその中の一つである。想像していたよりもずっと小柄なこの羊は、雌雄ともに螺旋状に巻いた角を持ち、全身を粗い長毛でおおわれていた。この粗い長毛が凍りついて、吹雪の中の放牧にも体温の放散をさまたげるのだということだった。

私がブラックフェイスにとくに興味を惹かれていたのは、出発前に「英国の羊肉料理ではスコティッシュ・ブラックフェイスのマトンチャップが一番」という言葉を耳にしていたからである。食いしんぼうの私は、折があればと思っていたのだが、この年はスコットランドへまわることができず、マトンチャップを味わう機会には恵まれなかった。しかしブラックフェイスを初め、ロンク、ラフ・フェルといった英国山岳種を目にすることができただけでも十分に満足できた旅だった。ロンクはその名前を荒地に自生する野草の名に負っているし、ラフ・フェルはフェル地方に飼われる頑健な羊の意味である。

この文の最初にあげた皇太子殿下の御歌を、私が素晴らしいと思う理由は、英国山岳種の特長が三十一文字の短い字句の中に見事に表現されているからである。「顔の毛黒き」がこれらの品種の外貌上の第一の特長をとらえているのをはじめとして、「こげ茶色のヘザーと石ころの岡の上」という字句は、原産地の荒々しい自然草地の風景を適確に描写していて(実は私は現地を一度も訪れていないのだけれど…)、このような土地でも耐えることのできる強健性が示されている。そしてもう一つ、これらの山岳種は、メリノ一種などと比べると群集性が弱い。群をかためて移動・採食をするといった行動は見られず(貧しい自然草地では当然の行動ではあろうが…)、バラバラと散らばって動きまわる。結句の「群れ遊ぶ」という言葉にもその様子が偲ばれて興味深い。

マンクス・ロフタン・ワークショップに 出席して

百瀬 正香

7月12日(日)イギリス中西部コッツウォルド・ファーム・パークにおいてマンクス・ロフタンのワークショップが開かれました。各ブリーダーたちが集まり、自分たちの飼育している「種」について勉強するこのような会は、年に数回色々な場所で行なわれています。今回は特にマンクス・ロフタン・ブリーダーたちにとって大事な「5ヶ年間調査計画」の詳細が討議されることになっていました。

マンクス・ロフタン・シープは、今年からマン島が加わったとはいえフロック(群)にして約80。頭数にしてやっと1000頭を越えたにすぎません。RBSTの危険度ランクは6段階のうち真中の3番目(92年4月発表)というまだまだ楽観を許さない小さな群ですし、ブリーダーの団体としても小さなもので独自にフロック・ブック(登録簿)を持つことができずRBSTが代わって管理しています。

ところが近年、マンクス・ロフタン・ブリーダーズ・グループではコンピューター設備と、その熟練者を得ることができたのを機会に羊の種では今まで行なわれたことがない程の大きな共同調査を5年間継続して取り組もうと決めたのです。将来の活動基盤を整えること、交配方針を改良すること、ロフタンにとってより効果的にすべての物事をとり行なうことを可能にするために、ということがその大きな理由です。

今から7年程前、初めてここコッツウォルド・ファーム・パークを訪れた時、その時私の「レア・シープへの道」が始まったのです。

私にとって記念すべきそのファームへ向けて、乾草作りの真っ盛り中、車を走らせていると、その当時の興奮、感激が甦り体中が緊張でこわばってくるのが感じられます。会場にはなつかしい顔がチラチラ。マンクスを日本に連れてくる時、牧場めぐりをずっと一緒にして下さり、その選別指導をして下さったP. ジュエル教授、オレゴンのカラード・シープ国際会議で講演をなさって下さり、今回の調査ではウール部門を全面的に引き受けて下さることになったDr. M. ライダー氏の姿も見られます。

まず15ページにも及ぶ「5ヶ年間調査表」が皆に配られました。ここでもう一度附言しておきたいことは、この調査は政府機関やRBSTが発案したものでなくブリーダーサイドの「すべての疑問は投げかけなくてはならない」という発想から生まれたということです。ですから日頃「答を必要としていた疑問」ということで、その質問項目が15ページに及んでしまったのでしょうか。その熱意がひしひしと感じられる重い15ページです。

この調査表は2部で構成されており、1部は羊を飼育している牧場それ自体に関する調査例えば牧場の立地条件、環境、牧草地の管理、牧草の質、栄養素の摂取方法、病気、寄生虫、出産、多産性。マンクス・ロフタン・シープの飼育目的などが細かく記載されています。2部は、各個体に関するもので誕生から5年間の身体測定、特徴、習性の記録というものです。そして、ここにすでに行なわれているウール調査が加わります。このウール調査は1994年に英国で行なわれるカラードシープ国際会議で発表される予定です。

一通り説明の行なわれた後は実施指導です。実際に一頭のマンクスが連れてこられ、身体測定が行なわれ、引き続きマンクスのフリースの中から色々なタイプや色の説明がありました。顔の色やフリースの色に関する問題はブリーダーの主観で色分けしないようにと慎重な討議がなされました。

最後はカード・グレーディングの説明と実技です。カード・グレーディングとは、赤、ブルー、イエロー、白というカードの色によって、個々の羊の質を褒めようというものです。各々の羊はパーフェクトなものなどあり得ない、という考えに立って赤を最高得点とし、顔の色、尻尾の形、脚の毛の有無、角の形と、一つ一つチェックしていき、その個体のグレードを決めていきます。このシステムの目的は飼育者が自分で飼っている「種」の特徴、遺伝子上の欠点などを把握できるようになるということです。

実際に10頭程のマンクスが皆の前に用意され、それぞれ自分は何色のカードにしたかその理由は、など皆で発表しあいながらRBSTの決定したカードと一致したかどうかの訓練指導がありました。

朝10:30から夕方4:00頃まで35名が出席。本当に充実した一時でした。私の着ていたマンクスのTシャツも大変な評判を呼びました。又、日本のマンクスのウールサンプルを見ていただき原種だからこそ維持しているウールの特性(rising, shedding, plucking⇒※羊のTea time)を理解した上での扱いを指摘されたことは大きな収穫でした。今回、ワークショップに出席し、ブリーダーたちの視点の規模の大きさにア然とさせられることばかりでした。

日本に帰ってきての7月31日、急遽皆様に声をかけ、正田先生、国政さん、工藤さんにお集まりいただき(急のため八巻先生は電話での参加、マンクス・ロフトン部門の岩瀬さんと日本レア・シーブ部門の豊岡さんは残念ながら欠席)

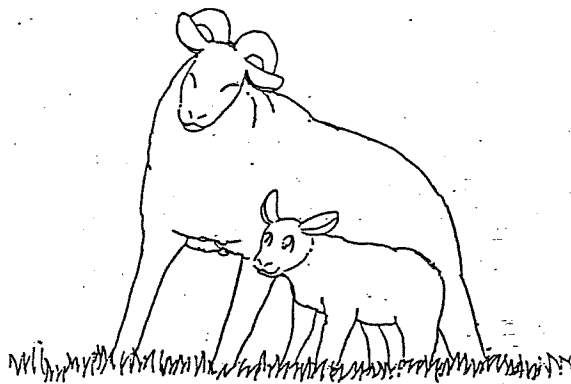
○英国での5ヶ年間調査計画について

○日本のマンクスのブリーディング問題

○ホワイト・マーキングの問題

等について話し合いを持ちました。これらのことは順次報告されていくと思います。

これからもますます皆、協力し合い、知恵を出し合って物事を進めていかななくてはならないと更に強く感じています。





マンクス・ロフタン種の 白徴について

Catherine E. Whiteway の超訳

文責 正田 陽一

◀ 手前より'91生まれモモ/'92生まれテレサ/'89生まれオキ(2頭の母)

哺乳動物の白徴の遺伝的支配には二つのタイプがある。一つはポリジーンによるもので、個々の作用は弱いけれども多数の遺伝子(座)の支配を受けて発現するもの——例えばウマの顔面の星や、四肢端の白(ストッキング)がこの型である。普通あまり大きくなく、動物種によって広さはさまざまである。

他の一つはメジャージーンが存在が考えられるもので、単一の遺伝子(座)の支配による形質——優性のもの、劣性のもの、伴性遺伝をするものなどがある。このグループはさらに二つのサブグループにわけられる。一つはヘレフォード(牛)の白面や、ハンブシャー(豚)のベルトのようなパターンであり、もう一つは単に斑紋と呼ばれるもので、その場所や大きさは、少なくとも一部は非遺伝的要因の影響を受けている。斑紋の程度は白色部が体の尖端部に限られたものから全身白色に近いものまでである。

マンクス ロフタンに見られる白徴は、劣性の単一遺伝子によるもので、前述の2番目のサブグループに属する遺伝様式と私は確信している。遺伝子記号で示せばsで、対立遺伝子・Sは全身着色(S e l f)無斑の遺伝子である。(第一図参照)

M. Ry der (1990)は、「sは有色品種(カラードシープ)に広くひろがっており、除去することは困難である」といっているが、私も同感である。白徴は、過去に交雑があったことを示すものではなく、純粋種でないことの証拠でもない。

現在のトラストの「白徴のある個体の登録を許さない」という方針は、s遺伝子をゆるやかに減少させる効果を持っており、第2図にそれを示す。

図にも示されるように、s s個体は集団の中で急激に減少するが、ヘテロのS s個体はかなり高率に残り、s遺伝子は消失しない。

もしs遺伝子を集団から完全に除去しようと思えば、表現型では無斑のS s個体を見出して繁殖群から淘汰する必要がある。

斑紋(s s)の子羊の両親は、表現型が無斑であってもs遺伝子を保有しているヘテロ個体であることは確実であるから淘汰しなければならないし、雄では斑紋の雌群と交配して遺伝子型がS SかS sかの後代検定が必要であろう。(理想をいえば雌についても遺伝型を確かめることが望ましいが、検定のために繁殖供用年限の半分を無駄にしてしまうの

日本の羊毛の調査・研究部門の報告

山本 実紀

日本に羊が居て、毎年羊毛を刈り取りながら、すべてのウールが活かされていないのは何故なのでしょう。手仕事から素材としてのウールに出会い、そして羊と出会った私にはとても不思議なことでした。

羊を飼う人とスピナーが同一であれば、また身近に羊飼いが居るのであれば、刈り取られたフリースを目の前にし、感触を確かめ、直接フリースから情報を得ることができます。けれども刈り取られたフリースを実際に見たり、触れたりできない羊から離れたスピナー（ほとんどがそうなのですが）には、そのフリースについての情報を知らせなければ、ものづくりへのスタート、そして、手仕事以外の用途への可能性を招くためには、もっと明確なデータが必要になります。それらは工業的な生産の上で必要とされるもので、繊維直径、繊維長、歩留りなどです。羊農業が基にあって羊毛を生産物として取り扱う国々には、その国の羊毛データがあります。用途よっての分離があり、基準があります。日本に居る羊のウールデータは、今まで数値で表されてはいません。私たちが今回始めることが、積み重ねの基となって、羊毛の活用用途が広がれば嬉しいのですが、今年を試験年度とした手探り状態の中でのスタートです。

フリースの提供については、レアシーブ研究会、シェアリング・クラッシング講習会参加者の方達や御紹介いただいた方達に協力を呼びかけました。フリースの条件は、ウールが一番安定・充実するという明3才（2度目の毛刈り）で経産羊（雌）のものであること。その牧場で一番頭数の多い品種であること。そして牧場内で平均と思われるフリース。ここで「平均」と言うのは、最良・最悪フリースを外した残り一つまり数としては一番多いはずの中から適当に選ぶということをお願いしました。7月中旬の時点で10フリースが東北大学農学部家畜育種の八巻先生の研究室に集まっています。また、送っていただいた牧場には、それぞれの牧場についての資料をお願いしてありますが、これについては再確認を必要とする所もあります。内容は、牧場の飼育目的や頭数、羊群構成、飼育状況、自然環境、feeding（餌の状況）などです。

今年ではできるだけ色々な角度からの調査を行い、出てきたデータから取捨選択して、来年度からの5年連続の調査を絞り込んだものにしていきたいと話合っています。現在の進行状況は、八巻先生の所の大学院生大内君と4年生の清水君が実際の作業を行っています。届いたフリースそれぞれの計量。スカーディング（裾物を外すこと）が行われた後に再計量。（スカーディングが終わったものを本来フリースと言います。この時外した裾物も調査対象になります。用途は限られますが、これも活用可能な生産物なのです。）そしてソーティング。今回は、ネック・バック・ショルダー・サイド・ブリッチの5つの部位に分け、それぞれの計測を進めているところです。ステイプルの長さを実測する繊維長。繊維の太さの計測では、部位ごとの差がどの位あるのでしょうか。また目で見て判断するセカント表示と実際の直径（マイクロン）の関係は、他の国々と比べてどうでしょうか。洗毛歩留りのパーセンテージは、フリースに含まれた泥や汗・脂分の量を示します。そして最も気になる夾雑物の量は？ 夾雑物はスカーディング段階で外すのが一般的ですが、今回は部位による夾雑物量の違いを見る意味もあって、そのまま外さずにいます。その他、バルク（かさ高性）やエアフローという機具を使つての平均直径の調査も行う予定です。

秋頃までにこれらの調査を終わらせて、データをまとめ洗毛状態のウールと共に協力してくださった牧場へ今年中には返送できるかなと思っています。またこの誌上にもデータのまとめは載せていただく予定です。ウールがすべて活かされる途は遠いけれど、先へと継いでいく調査にしたいと思っています。

日本のレア・シープ取り組み部門の報告

まかいの牧場'92マックス出産報告

岩瀬 誠樹

今年まかいの牧場の出産状況は、まかいの0頭、百瀬さん所有3頭という結果に終わりました。昨年秋に、まかいの所有のマックス2頭を不幸な事故で失い、残る1頭に期待していたのですが、残念ながら受胎しませんでした。しかし百瀬さん所有のマックス達は、今年も元気な子供達を出産し、その中でもトプシー(L3985)は日中出産してくれたおかげで、一次破水から全て見る事ができました。数ワラの量が多かったのか四肢をふんばれず、立ち上がるのに15分程かかりましたが、元気に乳を飲み一安心でした。脱柵の名手で大変手を焼かされるトプシーの仔だけに、これからどんな風に成長していくか、期待と不安の毎日です。そうそう、この仔は父親トフィー(L3964)譲りの立派な角をしていますので、これもまた楽しみの一つです。

・1992年マックス出産状況

D.B. SEX N.H. B.W.(kg)	D.B. SEX N.H. B.W.(kg)
百瀬:L3866 3/23 ♀ 2 2.6 25853	富士:L3925 3/13 ♂ 4 - 双子 25846
L3418 4/5 ♂ 2 3.8 25849	サファリ " ♀ 2 - 25852
L3985 4/6 ♂ 4 2.7 25850	L3875 3/26 ♂ 4 - 25847
	L4900 5/6 ♀ 2 -
本庄:L3867 3/26 ♂ 2 3.2 25848	本間:L3902 2/25 ♂ 4 -
(♂L4895)	L3319 3/21 ♀ 4 - 双子 25854
L3921 4/6 ♂ 4 3.0 25851	" ♀ - ③
L3716 4/18 ♂ 4 2.6①) 双子	L3898 3/26 ♂ 4 -
" ♀ 2 2.7②)	L4899 4/ ♀ 2 -

合計 ♂:9, ♀:7 (内1頭死亡)

注:D.B.=出産月日, SEX=性別, N.H.=角数, B.W.=生時体重

①= 頭部白斑入り, ②=全身白黒, ③=3/22死亡

富士サファリ、本間に関してB.W.は不明

羊と共に生きる

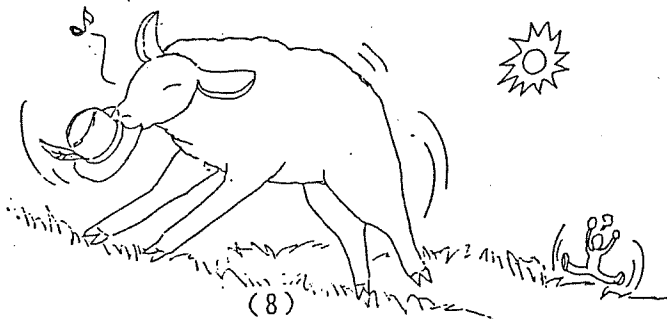
本間 文子

放牧地に11頭のマンクス・ロフタンが、今もせっせと食事をしています。丁度、道路から見下ろせる位置なので、全景が見え、のどかな風景は、時間が経つのを忘れさせてしまいます。でも昨年9月、近くの羊飼いの方に預けてあった7頭が引っ越して来てからの毎日を、どうしても皆さんにお話ししておかなければなりません。

まず、最初に火山灰を入れ、整地をした上にビニールハウスを建てました。そして放牧地に、不用になったミンクの飼育カゴを運び、柵の代用にしましたのです。ところが簡単に飛び越し、隣の畑の秋まき小麦を食べ昼寝をしている姿を見た時は、寿命が縮む思いでした。柵の補修と、集団脱走の繰り返しが落ち着くと、雪の降る前に半年分の飼料を確保しなければなりません。この地域では、乾草と豆殻を半々の割合で食べさせているので、早速、買入れ農家への印象も良くしようと、誘われるままに一日手伝いに行きました。豆殻を集めて積み上げる作業です。農作業は初めてで、他の人に負けまいと頑張ったせいもあり、次の日はベッドから起き上がれませんでした。後で、この作業は最もきつい仕事のひとつと聞き、わたしは試されているのだなと思い、又今度は豆殻を20kgずつに梱包する仕事を手伝いました。その結果、やっと羊舎に400ヶの梱包が積み上げられたのです。

種雄のロメオは貫禄がでてきて、危険度も増してきたので個室に移し、いよいよ出産の時期がやってきました。交配時が未確認なのと、初めての経験でなんとも心細い思いをしました。昨年は3月24日から始まったので、今年もほぼ近い時期と思っていたら、2月26日の朝、ロティが子羊と羊舎の外の雪の上を歩いているのです。元気な、かわいい声でなっていました。こんなに簡単に生まれるものかと安心したのが大きな誤算でした。3月26日、キャストイが2頭の雄を出産したのですが、次の日の朝、1頭が死んでしまい、それからが大変でした。4月1日にローナが雄1頭を出産し、3日後、この子羊が元気なく座りこんでいました。しばらく様子を見ていても立ち上がらないので、直ぐ、家畜診療所へ連れていくと、血液検査の結果、白筋症とのこと。放っておくと死に至り、原因はビタミンEの不足で筋肉が白くなる病気です。3日間通院、その後は自分で注射を打つ指導を受け、1週間で回復することができました。そして4月15日から展示会の為、東京へ行く予定の前日、サチコが、雌1頭を生みました。この子羊がミルクを飲めず、サチコの初乳を絞り注射器で、80cc程飲ませ、その後1時間おきに絞っては飲ませ、吸うことを教え、あとを隣の大家さんに頼み、やっと次の日旅立つことが出来ました。

10か月が過ぎ、何とか平穏な日々がやってきましたが、まだまだなにが起こるかわかりません。毎日11頭の数を確認し、名前を呼んで、今日も元気でと声をかけている毎日です。





三上 千晶

マンクスの羊毛を使いたいと単純な動機で入会したのですが、実際にフリースを手にすると作り手も野性を呼び覚まされる感じがしました。

まず、後回しにしがちな短めの毛、弱った毛全部に同量の良好部分を足し、織布を作りました。経糸は茶路めん羊牧場のポールドーセットを使用しました。織布だけで仕立てるつもりが腕前の都合でニットも加え、ああでもない、こうでもないという結果になりました。縮絨後もしっとりとした弾力ある風合いで、フリース時の感触がよみがえってきます。どの工程も手ごたえ充分で、手間のかけがえもあり、楽しく得るところの多い体験でした。使用量はマンクス（ニット部分も含めて）250g・ポールドーセット180gでした。このマンクス（フリースA・1989年生まれ・オス）の飼育牧場と名前を教えてください。

★富士サファリパークにいる名無しさん、登録番号L3473です。まだ一般公開されていませんが、いつか見に行かれたらよいと思います。立派な四本角をもったオスです。

マンクス・ロフトンのTシャツ

白地に黒でマンクスの絵をプリントしました。これを描いたイラストレーターの笠原徹郎さんは、日本画専攻の学生時代から恐竜をテーマにした絵を描いていて、動物の骨格や角には興味津々とか。

サイズはLのみ。定価2300円。送料は1枚200円 2~3枚300円 4枚以上450円。研究会事務局と種山ヶ原ショールームで扱っています。



▲後ろ

▲前

自 己 紹 介

◆猪狩 勉・幸代

はじめまして、福島の中の山の中に住んでいる猪狩です。農業改良普及員という仕事柄、日夜、牛、豚、羊などと戯れ、畜産の振興に尽力しているつもりです。

なぜ夫婦で会員に？と思われるかもしれませんが、勉「仕事で見る羊は顔の黒いサフォークばかり。たまには珍しい品種の羊が見たい！ 情報が知りたい！」 幸代「学生時代緬羊に関する文献を読みあさり、日本の緬羊業はこれからだと大口をたたいていた私。あれから早4年、現在の緬羊界は一体どんな状況なのか、少しでも近い所にいて生の情報を得たい。」と思ったからです。日本のレア・シープの育成、ウールの研究と調査等といった研究会の活動にはあまり参加できないかもしれませんが、正田陽一会長には大学時代、夫婦して（その頃は夫婦ではなかったが）講義をいただいたというただならぬ仲。何かの集まりがあれば、出来る限り参加したいと思っていますのでよろしくお願いします。

◆磴 正雄（姓はイシバシとよむ）

1935年12月14日北海道岩見沢市のコリデール羊舎の隣家に生まれ、牛馬犬猫兎鶏を友に育つ。父とは6才で死別。空知農業畜産科から獣医になる途が学制改革で閉ざされたので、北海道庁（空知支庁）に奉職。しかし、お役所仕事の発展のなさに失望し、夜間高校の生徒会活動で全日制との差別待遇撤廃のため、札幌岩定時制生徒連合結成に奔走したが、過労で19の春に肺結核でダウン。病床で進学の必要性を痛感し、大検に挑戦。中大に在籍し、稲葉修先生、水島広雄先生に師事。デモシカ先生の資格は確保したが、当時は所得倍増論たけなわ、世の中を動かすのは経済だということで、旭化成に就職した。

近年、自然との融和、共生の必要性を痛感。環境破壊こそ人類最大の敵であると認識。勸世界平和協会の理事として難敵退治をライフワークとすることを決意。レア・シープの保存はその一部であり、幼時の郷愁と同心円であるので、何か役に立てればということで入会。現在無所属ながら第二部門ならシンパになれそう。趣味は釣り、俳句、庭いじりにコイ育て、囲碁、卓球、柔道、弓道etc. よろしく。



◆井上 緑

生まれも育ちも（大半は）大阪。でも、住まいはヨークシャーかイングランド中西部だったらいいなと漠然と思っている、本職はしががない船会社のOLです。

雑誌等で何度もお名前を拝見した私にとっては「すてきな写真を撮られる百瀬さん」がこのような研究会を発足したい旨の話を聞いてから約2年。ただ手仕事大好き、編み物好き、そして、大好きなイギリスの地名を名に持ったいろんな羊たちと、それから生まれる暖かいセーターの「素」への道程は偉大だ！という単純な感動だけで会員になりました。

羊の品種改良や畜産の発展なんて話題は、ジンギスカンパーティーの話題と共に後ずさりしてしまっていますが、興味の対象にはいつもその風土や背景にまで逆上ってしまう、私の習性が何か役に立てばと思っています。

SHEARER ? !

R. UCHIYAMA

去る6月、私は3年ぶりにN.Zに足を踏み入れました。ひとしきり旧友との再会に涙し、いよいよ今回一番の目的である毛刈りの講習を受けるべく南島の首都クライストチャーチへと向かいました。指定された宿泊所へ入り、講習生と言葉を交わすまで闘志のみなぎっていた私ですが・・・”あんたシェアラー？オレら？みんなプロだよ”そういえば初心者のための講習なんてどこにも書いてなかった・・・次々と到着するシェアラーたち、名前さえ何て言っているのか分からない英語、とりあえず握手と笑顔を交わす。長い髪、入墨、ピアス、言葉の悪さに呆れつつ、彼らがドラッグで有名なのを思い出す・・・ああ、お母さん！！

N.Z.での毛刈り、ロムニーの毛刈り、ハンドピース（バリカンの種類）での毛刈り、みんな初めてで、おまけに緊張のあまり食欲がなくなったのも初めてでした。天候のせいで半日講習で終わった1日目、お昼を食べに学食へ行きました。入口ではおばさんが私たちのパスをチェックしてくれます。私の番がきたとき、思わずその手を止めたおばさんが、何とも大きな声で”SHEARER?!”、周りの学生たちがいっせいに振り向き、”SHEARER?!” ”What’s wrong?!” と言り返すこともできず、その日の夕方は鳴りっぱなしの心臓を抱え、ジョギングしてみたりビールを飲んでみたり・・・

しかし14人のシェアラーたちは外見とは裏腹に、とても親切で素敵な人たちでした。緊張している私を笑いつつも常に励ましてくれ、色々なことを教えてくれました。毎日300頭近く刈っている彼らですが私を馬鹿にすることは決してなく、女性や体の小さなシェアラーはたくさんいるので私でも大丈夫だと口を揃えて言ってくれました。

2～3日は講習の後体が動かず、最初の週は周りが思わず手を出してしまう場面もいくつかありましたが、素晴らしい指導員とシェアラーたちのおかげで、2週目はほとんど人の手を借りることもなくなりました。最終的な成績は17頭/h、最年少17才と並んでかなり少ない頭数でしたが、私の初めての記録でした。毛刈りの頭数も、ビールの量も、スラッグもまだまだですが、今度”SHEARER?!”と言われたら、にっこり笑って”Yes, I am”と答えたいです。・・・Can I ?!

バリカンの刃研ぎを始めます

お待たせしました。この度、緬羊毛刈りバリカン刃研ぎ専用のグラインダーを導入
切れ味長持ち、バツグンの事請け合い。

それを、上刃、下刃とも各1枚¥900（送料別）で引き受けます。

来年の春の毛刈りが、なんと待ち遠しい事か・・・!

（刃は必ず洗った物を送ってくださいね。）

送り先 レア・シーブ研究会

羊のティータイム

r i s i n g / s h e d d i n g / p l u c k i n g

百瀬 正香

今年の毛刈りシーズンにマンクスを飼育している人たちから「毛が毛皮のようにむけて見た目にもきたないし、どうしたんでしょう。」と連絡が入りました。「オッ!!マンクスたちよ、やってくれるじゃない。そう、そう、その調子。日本に来たからといって遠慮は要らない。ガンバレ!!」そんな思いが思わず電話での対応の声を大きくさせます。

これは病気ではなく、原種の羊の大きな能力の一つ *shedding* (換毛) という現象です。昔々、大昔、羊がウールというものを持つようになった頃、誰も毛を刈ることなど考えもつかず犬や猫、又は動物が春に毛が抜け落ちるように羊の毛もぬけ落ちていったのです。すでに植物繊維で糸を紡ぐことを知っていた地域の人たちは抜けた毛をかき集めて糸にしたでしょうし、糸を紡ぐ技術を持たなかった人たちは集めたウールを扱っているうちにフェルトになる習性を見い出していったことでしょう。

ところが抜け落ちた毛を拾い集めることは大変な労力ですし、第一量の問題もあります。彼らは毛が完全に抜け落ちる前に引き抜くことを思いつきました。

それが *plucking* 又は *clipping* といわれる作業です。新石器時代にはほとんどがこの作業でした。青銅器時代になってナイフや櫛が使われだしましたが、その期間でもほとんどは手での *plucking* が行なわれていたと思われます。完全に「毛刈り」という作業が行なわれるようになったのは、「ハサミ」という道具が作り出された鉄器時代からのようです。この *shedding* (換毛) 能力を持っている羊は現在、野生種と原種の何種類かで家畜種にはありません。18世紀になって羊の改良が盛んに行なわれるようになってからこの能力が消えていったようです。実際16、17世紀の記録や文献によるとシェアリングと *plucking* の両方が行なわれています。

1641年のヘンリー・ベスト氏の記録に「ウールのためには *clipping*、ゴーンのためにはシェアリング」と書かれてあります。*clipping* はより良いウールを選別しながら作業が出来ますし、穀類の肥料として羊を飼育しているのなら(※この時代は羊のフンを肥料に使う目的で羊を飼育することがあった)シェアリングの方がより能率的だということでしょう。更に“*rise*”について説明が続きます。

羊は *clipping* する前に洗います。もしウールが大変良い状態に“*rise*”されていたら洗った3日後に *clipping* をし、ウールがまだ“*rise*”されていなかったら *clipping* を一週間程のばします。“*rise*”とはウールが春になって冬の眠りから一気に目覚めることをいい、ウールがフワッと伸びあがったような状態をいいます。十分に“*rise*”されていないフリースは引っ張っても抜けることはありません。無理してむしり取ったら因幡の白うさぎのようになってしまいます。

十分“*rise*”されていれば *plucking* した時には、もう新しいウールが1cm程伸びており外気から身を守れるようになっています。

考えれば考える程素晴らしいメカニズムだと思います。

来年は皆で *plucking* の体験をしてみたいものです。いかがでしょう。

たかが毛刈り、されど毛刈り 毛刈りは健康診断日か？ 格闘技か？

武藤 浩史

4月から始まった毛刈りは8月に入り、ようやく終わりを迎えようとしています。かれこれ10年、数千頭の羊の毛を刈ってきましたが、まだまだ技術的には未熟であり、つくづく奥の深い技だと感じます。

【毛刈りは羊毛を利用するために必要】 元来、羊は自然脱毛していたが、人間がウールを得るために改良した結果、毛刈りしなくては生きていけなくなった。

【毛刈りは羊の健康上必要】 日本の暑い夏には暑がりな羊はバテテしまう。2年間毛刈りされずに、その重みに耐えかねて死んだ羊もいるとか。外部寄生虫の被害を抑えるためにも必要。1頭1頭捕まえることのできる数少ない機会は、年1回の個羊健康診断日。

【羊とのコミュニケーションを楽しむ】 床屋がお客といろんな話をしながら髪を手入れするように、羊と会話をしながら毛刈りできると楽しい。

【毛刈りは格闘技か？】 私のように300頭の羊の管理をし、更に他の牧場の毛刈りを請け負うシェアラーにとっては、1日何頭刈れるか、いくら稼げるかが勝負であり、楽しんでいる余裕はない。羊を追いかけて、捕まえ、倒し、毛を刈り、暴れる羊を押さえつけ、ときたま殴ったり殴られたり（年に一度は顔にあざができる）、まさにこれは格闘技。

【毛刈りは芸術である】 羊をそっと捕まえ速やかに優しく倒して保定し、スムーズにバリカンを進めて傷一つつけずに二度刈りもなく、羊が心地よく目を細めている間に素早く一枚のセーターのようにフリースを羊から脱がせ取る。これはまさに芸術の域に達する。

羊毛と羊に優しい毛刈り講習会

ゴールデンウィークに北海道の白糠と滝川で毛刈りと羊毛の仕分けの講習会を開催し、見学者を含めて40名の参加者が奮戦しました。大半が初心者で、しかもスピナーの女性25人は、汗臭い毛刈りには似つかわしくないと心配しながらのスタートでした。ところが、全員最低一頭を自力で刈り取って、そのフリースを講師の本出ますみさんの指導でスカーティングして毛質を見て、最後は丸めてしまい取りました。

生産者はじめ畜産現場関係者とスピナーの毛刈り・羊毛の仕分けを通しての交流は、言葉だけのコミュニケーションでは理解しづらい思いが、羊に触れ合うことで通じ合えた気がします。生産者は毛の出荷準備や番手の違いを学び、スピナーにとっては羊学入門で、「羊の体って温かいのね。来年も毛刈りをやりたい。」「バリカンで傷つけて血を見た瞬間手が震えたわ。でも2日目はうまく刈れた。」「2度刈り、3度刈りしてしまっただけ帰って紡ぐのが楽しみだわ。」と盛り上がっていました。夜は皆で羊料理に舌鼓。

参加者の中に羊を飼いたいと望んでいる若い夫婦が三組いて、生産者に羊の飼い方や購入方法などをたずねていました。既存の生産者が羊を飼う意欲を無くしつつある北海道に新たなパワーが入ってくることを期待します。春になると、バリカンを持つ手が震える仲間が増えることを楽しみに、来年もステップアップした講習会が開けたらと考えています。

めん羊サミット報告

工藤 悟

6月5日(金)6日(土)の2日間、長野県信州新町において「ひつじコミュニケーション'92」全国めん羊サミット in 信州が開催されました。当日行われた全日本毛刈りコンテストのデモンストレーションと審査員という大役を、私は依頼され出掛けました。

会場となった信州新町はジンギスカン料理の店が多数隣立し、また、長野県は緬羊飼養頭数第2位という事もあり、地域ぐるみで会場を盛り上げ盛況でした。

1日目は、開会式後、「日本のめん羊生産の現状」と題した平山秀介氏の記念講演よりスタートし、その後、飼育者代表として信州新町の峯村智夫氏からは、儲かる羊飼いを目指すためエサとして大豆殻や規格外リンゴを利用しているというお話し。毛の利用者代表として横浜市の小川朋子さんからは、日本コリデールとの出会いと、岩手県での羊を使った村おこしについて、肉の利用者代表として札幌市の前和孝氏からは、色々な羊料理を紹介され、中でも脳まで使う料理には驚かされました。以上、3つの体験レポートの発表がありました。

2日目は、毛と肉に分かれて、生産についてのシンポジウムが開かれました。それぞれ、「国産羊毛への期待」、「肉めん羊の生産」と題して進められました。午後からは、コンサートや民族音楽、そして、全日本毛刈りコンテストなどのイベントが行われました。

全日本毛刈りコンテストは参加者5名とたいへん寂しいもので、また、他のイベントに時間を取られてしまい予定よりも短いコンテストになってしまい残念でなりませんでした。

コンテストに参加された選手は武藤浩史(北海道の茶路めん羊牧場)、小林寿彦(長野の平沢サフォーク牧場)、峯村智夫(地元の飼育者)、金指歳(静岡の龍山村緬羊旅行村管理運営組合)、浜戸祥平(岩手の小岩井農場)、以上5人の選手により行われました。

コンテストはデモンストレーションから始まり、その後、選手5名は2頭のサフォーク(去勢、明2才)の毛刈りに挑みました。司会者の『ヨーイ。メー!』の合図で一斉にバリカンが動きだし日頃の腕前を競いました

採点方法は毛刈り時間に傷、刈り残し、フリース仕上りの3項目の減点数を1点6秒として加算し、最終的に時間の短い選手が勝者となります。結果は、武藤選手、小林選手、金指選手、峯村選手、浜戸選手の順位となりました。

駆け足でコンテストの表彰式が行われ、閉会式へと進み無事サミットは終了しました。

このコンテストで、3位と5位になった金指さんと浜戸さんは、今年、3月にまかいの牧場で行われたレア・シープ研究会主催の講習会に参加された方です。

金指さんは講習会に参加するまでは我流で毛刈りを行っていましたが、講習後の苦勞と努力の結果に、私も敬服致しました。浜戸さんは毛刈り歴が短く、講習会で初めて1人で毛刈りが出来たというのに、すばらしい上達ぶりで、5位とは言え大差ないもので大健闘され、講習会が少しでも役に立ったのではないかと思ひ、今後の講習会に張り合いが出来ます。また、この様に日頃の成果を発表する機会を設けることは、技術の向上をはかると共に、日頃の飼育管理の意識を高めていくことにもなるでしょう。そのために、微力ながら、協力していきたいと思ひます。

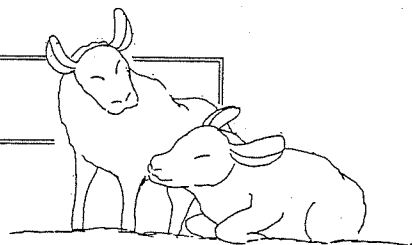
神奈川県フリーズ・デーに参加して

下山里香子

5月31日(日)は、3回目を迎えたフリーズデー! 場所も秦野農協から一転して弘法山のめんようの里へ。レア・シーブ研究会は出来たばかりのTシャツや絵はがき、ポスター等を並べたシンプルな店構えでの参加でした。今回は広さもありますが、店に居ながらにしてイベントの様子が分かり、参加している実感が持てました。日本のフリーズもいろいろと見たり触れたりすることで、生産者も使い手も意識が変わってきていることが3回目ではありますが歴然としてきたようです。毎年会えるという楽しみを持続していくことが、いろいろな問題をクリアしていく窓口になっていくように思います。

レア・シーブ研究会のメンバーはここでも活躍していました。フリーズを審査をする本出ますみさんの姿勢は真剣で思い入れの強さを感じましたし、講評はとてつもないで分かりやすいものでした。内山礼子さんのさっそうとした毛刈り、フライイングシーブの豊岡夫妻の出品フリーズへのこだわり……etc. 皆それぞれすごい一言で、また来年が楽しみです。私もフリーズを買ってしまい、楽しい一日でした。

インフォメーション



◆新会員紹介

田中忠二 〒083 北海道中川郡池田町清見1 Tel.01557-2-2848

浜戸祥平 〒020-01 岩手県盛岡市安倍館町10-36 寿来荘103 Tel.0196-46-2677

◆英国からの新着商品紹介

①シェアリング専用シューズを数足購入してきました。正式にはモカシン・レザー・シューズといい、北米インディアンが履いていた柔らかい鹿革のくつです。手元に1足残すだけとなりました。今回は特に低価格で提供できますので、ほしい方は事務局までどうぞサイズは26~28cm位、カラーは薄いブルー、定価6600円+送料。

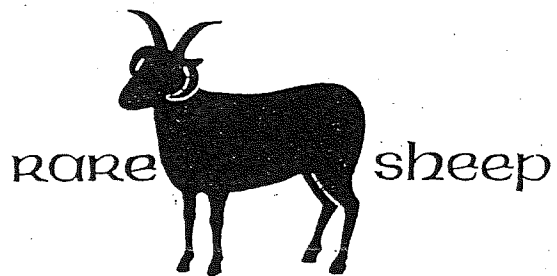
②羊のカードや絵はがき等13種類を購入してきました。それぞれの数は少ないですが種山ヶ原ショールームで手にすることができます。価格は110~780円。

編集後記

北海道の原宗茂さんからこんなお便りが届きました。

『羊の頭数を無限にふやすわけにはいかず、肉の事は避けて通れない問題です。先日、うちの羊を初めて肉にしました。屠場へ任せず自らの手で行いました。肥育をかせず放牧のみで育てたので、肉の量は余り多くありませんでした。顔の見える希望者に、動物の命の犠牲があって人の命が成り立っている事を実感して、食べてもらえればと願っています』

皆さんも羊との関わりや、レターズに対する感想・意見・質問などお寄せください。絵や写真もお送りください。2号までは勢いで何とかりましたが、勝負は3号からです。3号は12月発行予定です。皆さんの投稿お待ちしております。



1992年8月発行 第2号 (年3回発行)

編集・発行 ●レア・シープ研究会 百瀬正香

〒247 神奈川県鎌倉市大船6-10-58

Tel. Fax. 0467-47-5516